

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																											
専門学校広島工学院大学校	平成7年6月28日	半明英幸	〒731-3166 広島県広島市安佐南区大塚東三丁目2番1号 (電話) 082-848-7780																																											
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																											
学校法人古沢学園	昭和62年3月17日	古澤敏昭	〒730-0811 広島県広島市中区中島町9-11 (電話) 082-247-3700																																											
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																									
工業	工業専門課程	電気・デジタル通信学科 電気工学コース		平成6年 文部省告示第84号	—																																									
学科の目的	ネットワーク接続技術者「工事担任者AI・DD総合種」(総務省)の養成認定校として電気設備工事の基礎・応用を学び、電気工事士・電気通信技術者および陸上特殊無線技士の能力を備えた実践的な電気工事技術者を育成する。																																													
認定年月日	平成27年2月17日																																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																																								
2年	昼間	1,872時間	1,263時間	—	382.5時間	—																																								
	単位時間																																													
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																									
80人	15人	0人	2人	1人	3人																																									
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優90点以上・良:85～89点・可:80～84点・不可:79点以下																																									
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月25日～8月21日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	・出席率95%以上 ・評定に「不可」がないこと ・研修(課外活動)を修了していること																																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席・遅刻者については、電話フォロー・個人面談・保護者面談・校長面談実施後、補習を行い再発を防ぐ。生活指導については、健康管理・挨拶・マナー・生活改善等をクラス担任より日常的に指導している。			課外活動	■課外活動の種類 ・江田島研修(国立江田島青少年交流の家) ・三瓶研修(国立三瓶青少年交流の家) ■サークル活動: 無																																									
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 電気工事会社 ■就職指導内容 ・希望調査(入学時) ・個人面談(進路指導担当者および担任) ・会社訪問指導(担任) ・会社訪問(希望企業) ・三者面談 ■卒業生数: 5人 ■就職希望者数: 5人 ■就職者数: 5人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事担任者AIDD総合種</td> <td>①</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>第一種電気工事士</td> <td>①</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>第二種電気工事士</td> <td>①</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>第二級陸上特殊無線技士</td> <td>①</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>高所作業車技能講習</td> <td>③</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2級電気工事施工管理技術検定</td> <td>①</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>アーク溶接特別教育</td> <td>③</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>小型車両系建設機械特別教育</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>小型移動式クレーン技能講習</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄(例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	工事担任者AIDD総合種	①	5	5	第一種電気工事士	①	5	5	第二種電気工事士	①	5	5	第二級陸上特殊無線技士	①	5	5	高所作業車技能講習	③	5	5	2級電気工事施工管理技術検定	①	5	4	アーク溶接特別教育	③	5	5	小型車両系建設機械特別教育	③	1	1	小型移動式クレーン技能講習	③	1	1
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																											
工事担任者AIDD総合種	①	5	5																																											
第一種電気工事士	①	5	5																																											
第二種電気工事士	①	5	5																																											
第二級陸上特殊無線技士	①	5	5																																											
高所作業車技能講習	③	5	5																																											
2級電気工事施工管理技術検定	①	5	4																																											
アーク溶接特別教育	③	5	5																																											
小型車両系建設機械特別教育	③	1	1																																											
小型移動式クレーン技能講習	③	1	1																																											
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成28年4月1日時点において、在学者 14名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者 14名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 該当者なしのため未記入 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・中退防止 素行・態度等の変化を早めに察知し、声掛け・面談・家庭連絡を密に実施している。また、クラスの状況や学生の状況は職員会議にて共有しており担任・学科長および分掌等が連携し組織的に対応している。 ・中退者支援 経済的問題で退学または進学を断念せざるを得ない場合の就職斡旋。																																													
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ・指定校推薦入試制度(入学金のうち5万円免除) ・入学金免除制度(親族兄弟姉妹:5万円免除)(学園内進学者:全額免除)(電気工事士有資格者:全額免除) ・住居費補助制度(入学初年度:5万円補助) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ・前年度の給付実績者数 0人																																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																													
当該学科のホームページURL	http://www.furusawa.com/																																													

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
電気工事士・電気通信主任技術者および陸上特殊無線技士等の能力を備えた実践的な電気工事技術者を育成するため、電気業界団体・電気工事企業と連携して教育課程の編成や工夫・改善を行い、実践的な職業教育を行うための協議・検討をする。
(2)教育課程編成委員会等の位置付け
・職業実践専門課程委員会規定により、実践的かつ専門的な職業教育を実施するための教育課程編成委員会を設置し、関連企業等からの意見・要望・情報を活用し、教育課程の編成及び工夫・改善を行う。
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
丸中 浩行	一般社団法人 広島電業協会	平成29年4月1日～平成30年3	①
吉田 稔三	株式会社 中電工	平成29年4月1日～平成30年3	③
難波 敏昭	伍永通信 株式会社	平成29年4月1日～平成30年3	③
山本 将文	広島総合警備保障 株式会社	平成29年4月1日～平成30年3	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期(開催日時)

第1回 平成29年6月16日 15:00～16:00

第2回 平成30年1月中旬 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・電気工事現場の見学を取り入れる事が最も良い勉強となるのではないかと。

・建物を模倣した設備で実習できれば良い。

専門的なスキルアップは当然であるが、授業の実施方法についての意見を頂いている。意見・要望を活用し、より実践的な

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

・校内で実施している授業に追加し、職業能力(態度、思考、行動、責任等)及び最新の専門知識・技能を修得させる。

・業界の動向、人材需要も含む最新の実践的な知識・技能を修得させるため企業からの派遣講師による

授業(講義・実習)を受講し、その評価を受け、より実践的な人材を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教育課程編成委員会規定に基づき、職場での仕事及び作業の理解、最新技術の習得が将来の仕事に繋がる学びとなる事を目指して企業等へ派遣授業を依頼する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な3科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
端末設備技術	機械警備設備の監視・技術機器の説明	広島総合警備保障 株式会社
接続工事技術	通信配線の成端作業・屋内で使用する無線機器(ナースコール、無線LAN)	伍永通信 株式会社
電気実習 I A	金属管・合成樹脂管の加工作業・安全施設設備の体験	株式会社 中電工

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

・最新技術(技法・作業要領)、法改正等の習得および学生の指導力をレベルアップさせるため、業界団体・企業等が主催する研修や各セミナー等へ積極的に参加し、新技術の習得・経済及び産業界の動向を含め情報収集に努める。

また、企業等との組織的連携を更に深め、自己啓発により習得したものを授業および学生にフィードバックする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・電気主任技術者研修 (社)日本電気技術協会主催

・情報通信エンジニア(ビジネス)更新研修 (一財)日本データ通信協会主催

②指導力の修得・向上のための研修等

・就職情報研修会 広島県専修学校各種学校連盟主催

・安全体感実習 (株)中電工主催

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・電気保安全管理規定講習(一社)日本電気協会中国支部主催

②指導力の修得・向上のための研修等

・情報通信無線通信ネットワークの最新動向 (一財)日本データ通信協会主催

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること」

(1)学校関係者評価の基本方針

・企業等および保護者・卒業生等の参画による学校関係者評価委員会を設置する。自己点検・評価結果に基づいて教育目標・教育環境など学校運営についての評価や意見を委員より頂き、学校運営の全般について改善及び発展に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	職業教育の特色は何か、社会のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか等
(2)学校運営	目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか等

(3)教育活動	教育課程の編成・方針等が策定されているか、教育方法の工夫・開発が実施されているか、教職員の指導力や資質向上に努めているか等
(4)学修成果	資格取得・就職率の向上が図られているか等
(5)学生支援	進路・就職・健康管理、有休取に関する体制は整備されているか。保護者及び同
(6)教育環境	施学校との連携が適切か等
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか
(9)法令等の遵守	法令及び設置基準が遵守され、適正な運営がなされているか等
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

I 教育目標

・教育目標及び計画のPDCAサイクルは4点以上の高い目標とする

II 教育活動

・学生の悩み相談を広く受け取る体制を整備する

・コミュニケーション能力・対人関係(人との関わり)・寝教育など検討課題として更に改善する

III 福利厚生

・充実している。との評価を頂いているが、生活環境には更に配慮し学生満足度および評価が向上するよう努める

IV 管理・運営・財務

保護者アンケート、学生アンケートによる意見を基にして改善工夫に反映させる

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
山西 和夫	一般社団法人 広島県自動車整備振興会	平成29年4月1日～平成31年3	企業等委員
平尾 健吾	トヨタカーラ広島 株式会社	平成29年4月1日～平成31年3	企業等委員
竹中 光	伍永通信 株式会社	平成29年4月1日～平成30年3	企業等委員
大林 泉	広島工学院大学校 在校生保護者	平成29年4月1日～平成31年3	PTA
岡田 康嗣	岡田自動車 株式会社	平成29年4月1日～平成30年3	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.furusawa.com/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づいた項目により、教育活動の取組及び学校運営の状況等をホームページにて情報公開し、企業等および学校関係者など幅広く理解して頂く。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	HPのサイドマップ「学科紹介」
(2)各学科等の教育	HPのサイドマップ「学科紹介」
(3)教職員	HPのサイドマップ「学科紹介」「Q&A」
(4)キャリア教育・実践的職業教育	HPのサイドマップ「学科紹介」
(5)様々な教育活動・教育環境	HPのサイドマップ「トピックス」
(6)学生の生活支援	HPのサイドマップ「キャンパスライフ」
(7)学生納付金・修学支援	HPのサイドマップ「入学案内」
(8)学校の財務	HPの「財務情報の公開」
(9)学校評価	HPの「自己点検評価報告書」「学校関係者評価結果報告書」
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.furusawa.com/>

授業科目等の概要

工業専門課程 電気・デジタル通信学科 電気工学コース 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養	就職指導・ビジネスマナー・社会人教育	2前	43.5	2	○			○		○		
○			電気数学	電気計算に必要な数学（三角関数・指数・虚数等）	1年通年	45.0	2	○			○		○		
○			コンピュータリテラシー	文章作成・表計算・データベース作成	1前2通	66.0	3			○	○		○		
○			CAD製図	併用CADによる機械製図と電気製図	2通年	43.5	2			○	○		○		
○			ホームルーム	企業研究・就職活動の準備	1年通年	45.0	2	○			○		○		
○			電気回路	直流・交流回路の機能および計算	1通2前	78.0	3	○			○		○		
○			電気磁気学	静電および電磁エネルギー	1年通年	55.5	2	○			○		○		
○			配線設計	配電方法・回路構成および特性	1年通年	33.0	1	○			○		○		
○			電気材料	電気工作物の材料	1年前	25.5	1	○			○		○		
○			電気機器	電気機器（変圧器・電動機・発電機器）の構造	1年通年	73.5	3	○			○		○		
○			工事施工法	屋内電気工事の施行方法	1年通年	78.0	3	○			○		○		
○			検査方法	電気工作物の原理と検査方法	1年前	16.5	1	○			○		○		
○			電気製図	配線図の読み方・書き方、CADによる作成方法	1年通年	55.5	2	○			○		○		
○			電気法規	電気設備基準（電技解釈含）および関連法規	1年通年	55.5	2	○			○		○		

○		電気実習 I A	電気工事実技（基本作業）	1 年 通 年	2 2 8 . 0	5				○	○		○	○	○
○		無線工学	第二種特殊無線技士に必要な工学	1 年 通 年	2 8 . 5	1	○				○		○		
○		無線法規	第二種特殊無線技士に必要な法規	1 年 後	2 1 . 0	1	○				○		○		
○		電子回路	電子回路の機能・性質・計算方法	2 年 前	2 2 . 5	1	○				○		○		
○		論理回路	論理回路の機能・性質・計算方法	2 年 後	2 1 . 0	1	○				○		○		
○		伝送理論	伝送回路の電気的特性の計算	2 年 後	2 2 . 5	1	○				○		○		
○		伝送技術	伝送回路の種類・機能	2 年 前	2 1 . 0	1	○				○		○		
○		端末設備技術	通信端末器の構造・機能	2 年 通 年	1 0 9 . 5	5	○				○		○		○
○		接続工事技術	通信端末器の取付・工事設計・施行・保守	2 年 通 年	8 7 . 0	4	○			○	○		○		○
○		トラヒック理論	伝送回路のトラヒック諸量および計算方法	2 年 後	2 1 . 0	1	○				○		○		
○		デジタル通信技術	総合デジタル通信の仕組み・機能	2 年 前	2 2 . 5	1	○				○		○		
○		ネットワーク技術	主要通信ネットワークの仕組み・機能	2 年 通 年	6 4 . 5	3	○				○		○		
○		セキュリティ技術	情報機器に関する脅威の種類と対処方法	2 年 後	2 1 . 0	1	○				○		○		
○		通信法規	電気通信事業法および関係法令	2 年 通 年	8 7 . 0	4	○				○		○		
○		特別活動 A	合宿研修	1 ・ 2 通 年	1 6 8 . 0	2	○	○				○	○		
○		特別活動 B	校内研修	1 ・ 2 通 年	5 8 . 5	2					○		○		
	○	電気実習 I B ※1	電気工事実技（基本配線工事）	1 年 後	1 4 1 . 0	4				○	○		○		

○	電気実習Ⅱ ※2	電気工事実技（応用配線工事）	2 年 通 年	1 3 2 （ 2 1 6 ）	3 （ 5 ）	○	○	○							
○	電気演習Ⅰ ※3	電気主任技術者に必要な理論・電力・機械・法規	1 年 後	8 7 0	4	○	○	○							
○	家電技術 ※4-1	生活家電・AV情報家電の技術、修理	1 ・ 2 年 後	8 7 0	4	○	○	○							
	防災設備 ※4-2	消防設備の工事・整備				○	○	○							
○	電気演習Ⅱ ※5	電気主任技術者に必要な理論・電力・機械・法規	2 年 前	4 5 0	2	○	○	○							
○	C言語 ※6-1	C言語によるプログラミング実習	2 年 前	4 5 0	2		○	○	○						
	UNIX実習 ※6-2	UNIXコマンドの基本操作方法					○	○	○						
○	コンピュータ実習 ※7	JAVA言語によるLEGOロボットプログラミング	1 年 後	2 2 5	1	○	○	○							
合計		40 科目	1, 872			単位時間(70単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等		
	【卒業要件】	1学年の学期区分	2期
	1. 各学科・コースの修業年限に達していること。 2. 当該学科・コースの当該年度における出席率が90%以上であること。但し、電気実習においては98%以上とする。 3. 当該学科・コースの当該年度における履修すべき授業科目の学年末評価に全て「不可」がないこと。 4. 本校の主催する研修（特別教育活動を含む）を、全て修了していること。 5. 未納金のないこと。 【選択必修科目の履修方法】 1. 第2種電気工事士を選択する者は、※1第2種電気工事士（141時間）及び※2電気実習Ⅱ（132時間）の授業時数を履修すること。但し、第2種電気工事士養成施設の修了希望者は※1第2種電気工事士（141時間）及び※2電気実習Ⅱ（216時間）の授業時数を履修すること。 2. 電気主任技術者系及び家電修理技術者系を選択する者は、次の①又は②のいずれかによる授業時数（154.5時間）を履修すること。 ①※3電気演習（87時間）・※5電気演習Ⅱ（45時間）・※7コンピュータ実習（22.5時間）を履修すること。 ②※4-1家電実技と※4-2防災設備（87時間）・※6-1C言語と※6-2UNIX実習（45時間）・※7コンピュータ実習（22.5時間）を履修すること。	1学期の授業期間	19週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。